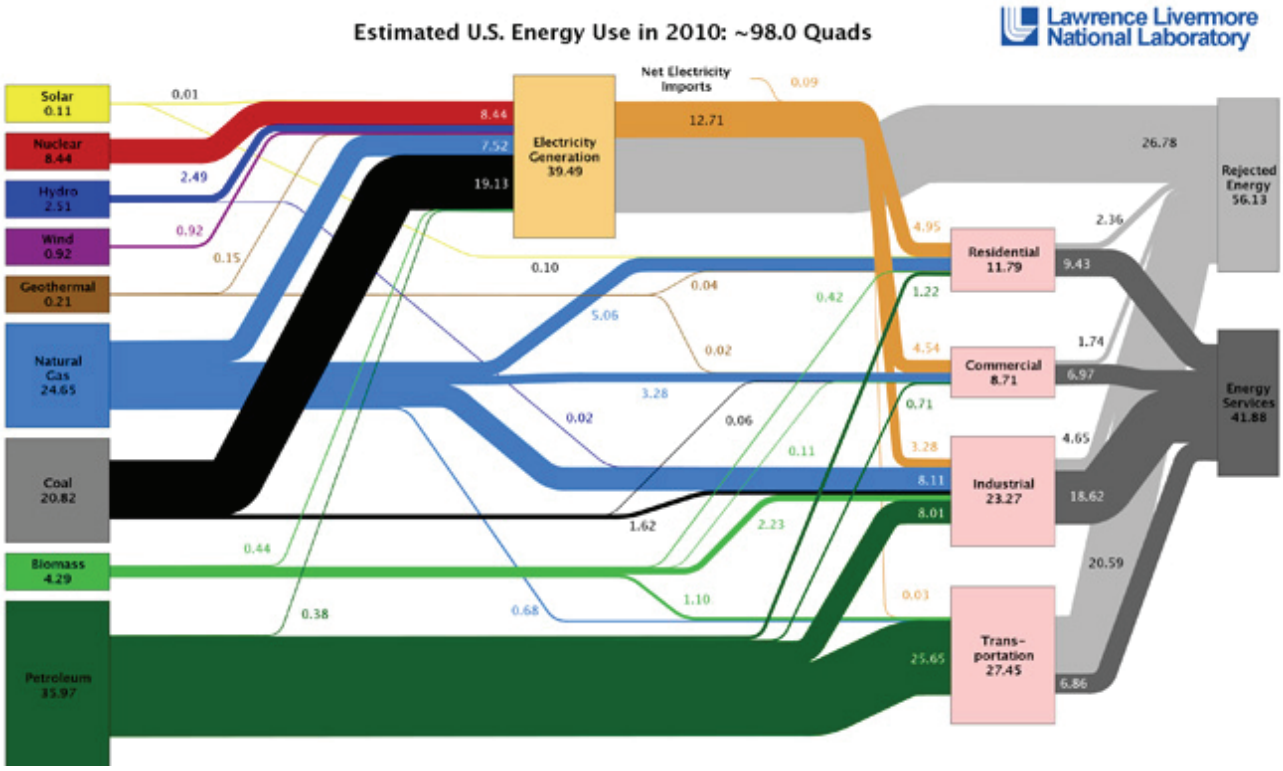
# NEDO WASHINGTON DAILY REPORT

《2011 年 11 月 9 日号》

## エネルギー

### ローレンスリバモア国立研究所、米国の化石燃料消費は 2010 年に増加したと報告

米国のエネルギー消費量は 2009 年には過去 12 年間で最小の 94.6 千兆（quadrillions =quads）にまで縮小したが、2010 年にはエネルギー消費が再び上昇し、98.0 quads まで増大した。ローレンスリバモア国立研究所（Lawrence Livermore National Laboratory =LLNL）が発表した米国エネルギー消費の最新フローチャートによると、2010 年に米国は 2009 年よりも多くの化石燃料を消費した一方で、再生可能エネルギー発電の方は、風力発電の増大が水力発電の減少で相殺された為にほぼ横ばい状態であったという。



2010 年の米国エネルギー消費の動向（2009 年比）は下記の通り：

- 2010 年のエネルギー消費の大半は発電部門で 39.49 quads。運輸部門（27.45 quads）がこれに続き、産業部門（23.27 quads）、家庭部門（11.79 quads）、業務部門（8.71 quads）の順。
- エネルギー消費は、家庭・業務・産業・運輸の全部門で増加。
- 過去同様に、発電部門では石炭（19.14 quads）が最大のプレーヤーであり、原子力（8.44 quads）が第 2 位、天然ガス（7.52 quads）が第 3 位。
- 発電部門における天然ガス消費は、一貫した天然ガスの低価格に駆られ、2010 年には 0.5 quads 増加。過去 6 年では 25%の増大。
- 風力発電は、0.70 quad BTU から 0.92 quad BTU に増加。
- バイオマスエネルギー消費は、エタノールの輸送用燃料および工業生産用原料としての使用が増えたことから、3.88 quads から 4.29 quads へと増大。
- 2010 年の炭素排出量は 2009 年（5,428 百万メトリックトン）よりも多かったものの、エネルギー消費の減少・発電部門の石炭から天然ガスへの転換や再生可能資源の導入によって、米国のカーボン・フットプリントは過去数年にわたって減少傾向にある。2010 年の二酸化炭素排出量は、史上最高であった 2007 年（6,022 百万メトリックトン）よりも 390 百万メトリックトン少ない 5,632 百万メトリックトン。

（Lawrence Livermore National Laboratory News Release, November 8, 2011）


| | NEDO Washington DC Office | |
|---|---|---|
| **CHIEF REPRESENTATIVE** | **: TATSUYA SHINKAWA** | **(shinkawatty@nedo.go.jp)** |
| **REPRESENTATIVE** | **: TAKESHI MAENO** | **(maenotks@nedo.go.jp)** |
| **RESEARCHER** | **: KIYOKO MATSUYAMA** | **(kiyokom@nedodc.org)** |
| **RESEARCHER** | **: KELLISTON MCDOWELL** | **(kmcdowell@nedodc.org)** |
| **RESEARCHER** | **: LANNY FOX** | **(lfox@nedodc.org)** |